



ガンジーと糸紡ぎ

1. 暴力とは何か 軍隊がなければ非暴力??

直接的暴力=肉体的な攻撃を加えること、

構造的暴力=先進国の日常生活(何を食べ、何を着るか)が、途上国の人々の命を奪っている。

日常生活に潜む構造的暴力、経済の仕組みが、戦争以上に人々を殺している。 飢餓輸出

植民地になる前となった後のインド

前：自給自足型の農村社会

優れた手織りの綿織物産業⇒ヨーロッパに輸出

後：原料を供給して、工業製品を購入

手仕事の崩壊、失業、貧困

貧困こそ最大の暴力である。

「経済戦争も武器による戦闘と同じくらい悲惨です。武器の戦いが外科手術であれば、経済戦争は延々と続く拷問です」

「3億9千万人の死骸の上に1千万の人々が生きている光景は目にしたくはない。」



2. 近代機械文明批判 開発されねばならないという欺瞞

機械化の問題点 機械化によって、先進国が途上国を搾取する構造が生じる。

1. 格差 持てる者 対 持たざるもの

機械による大量生産 失業者を生む⇒競争⇒労働力の買い叩き

失業させないためには今までより多く作る必要

2. 戦争の原因 無駄なものを作る 兵器 軍隊など → 環境破壊

原料・市場の確保 他国を犠牲にして栄える

3. 人を依存的にする 家畜や奴隷のように

食糧はあるのに飢える お金を稼ぐための労働

自信のなさ プロの職人 ⇒ 賃金労働者(置き換え可能な部品) 作るから買う生活

競争社会 消費社会 → アルコール ギャンブル . . .

Born to Buy ブランド品を身につけるのが、cool!! カッコいい

「日本人としての誇り」を強く主張する若者 心理的不安定さ

物づくりの仕事がなくなり、消費者としてしか自分のアイデンティティを主張できない。

自分が何者かをしっかりもてていない人が、その支えとして国家に頼ろうとする。

競争社会の弊害：競争によって切磋琢磨するよりも、弱い人を探し、攻撃して優越感に浸る。

就職難、資源の枯渇、温暖化…… ベルトコンベアのはきは崖っぷち

もう自分の重みで倒れようとしている建物の中に残っているのは愚かなことで、早く出てゆくべきだということをはっきりしている。『神の国は汝等の衷にあり』レフ・トルストイ

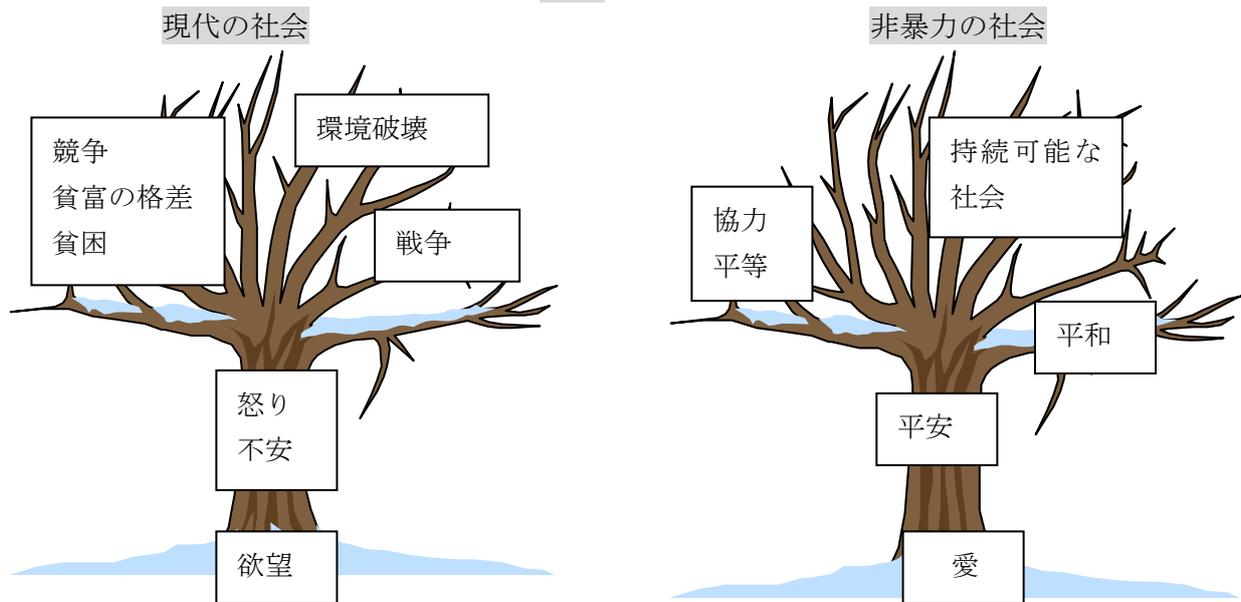
私たちは新しい社会を作っていくべき member ではなく、builder になろう。

教育基本法 第 1 条 (教育の目的)「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」

DVD上映

塩の行進の場面では、行進者の服装と、女性が道端で何をしているかに注目

3. 問題の根本原因は何か=貧困の原因は欲望にあり



「欲望を愛で置き換えなさい、そうすれば全てがまともになります」 (M.K.ガンジー)

「戦争に反対する運動は健全です。成功することを願います。しかし、あらゆる悪の根本原因、すなわち人の欲望ということを取り上げなければ、その運動は失敗に終わるのではないかと危惧します」

「建設的プログラムの有効性を信じない人は、飢える大多数の人々のことを具体的に思いやることができない人だと私は感じるのです。そのような思いやりの感情を欠いていれば、非暴力のやり方で闘うことができません。非暴力の最善の準備、さらにはその最善の表現形態は、建設的プログラムを断固として推進することにあります。」

知足で解決 自発的貧困

非暴力とは糸車である

みんなが裕福なアメリカ人や、日本人のように暮らすことが解決ではない。

勝ち組への道 ≠ 幸せへの道



4-1. 建設的プログラム：欲望を愛で置きかえる手段＝**憎しみを超えて、和解へと**

大切なのは **プロセス** 作る**過程に**喜びがある。 やってみること

スピードによって失われたものに気づき、旅を楽しむように人生を送ろう

人を幸福にする鍵は**労働**にある。⇒協力、思いやり、忍耐

※ **具体的提案をしたのが、ガンジーのすごさ**

手仕事の再興・糸紡ぎ 心と経済の仕組みの両方を変えることができる。

お金を与えるのが解決策ではない

↓ **皆が**手仕事を分担する 自給的農業はすべての人の義務 半農半職人・半農半X
衣・食などの必需品を手仕事によって得ていく。⇒農村再建

手先の器用さが人間の真髓 少数だが**本物**が手に入る。＝ **真の豊かさ**

心の浄化 心の**変革**（自発的貧困）→人生の変革→周囲へ→社会の変革

草取り、糸紡ぎなど、手仕事は人の心を穏やかにする。

時間がかかる肉体労働に従事することで、**忍耐**が培われる。

欲望に取り付かれたままであれば、省エネ技術が導入されても、効果はない。

走行距離が伸びたり、今まで以上に部屋を暖かく、あるいは冷やしたり…

心が変わると、必要なものと、そうでないものが見極められる。⇒**足るを知る**（道具で十分）

同じ物が、人を生かすことにも、人の命をあやめることにも使われる。

例) 包丁、手・足、言葉…

雇われる生活から自営業へ。経済の仕組みが変わる

ガンジーのアシュラム役職をボイコットした時の受け皿 逮捕されても、妻子が路頭に迷わない。

私たちのアシュラムを作っていく。 自給的農業、手仕事、物々交換で生活を成り立たせる。

財産はお金ではなく、手に持った技術と協力し合える人間関係 ⇒働くこと（肉体労働）が喜び。

大企業への非協力 自分たちが生産手段をコントロールする＝脱機械化⇒エネルギー消費の削減

大企業の製品よりも、地域の職人が手作りしたものを。地域の小売店が復活し、大企業がつぶれてゆく社会。

「バングラデシュの機織り職人は電力を使用しないため、職人1人あたり機械織りの布生産に比べ1年に1トンのCO2排出量削減に貢献しています」(『By Hand』サフィア・ミニー著・幻冬舎)

仕組みを変えようとするのではなく、一人一人が**努力**することで、**仕組みが変わっていく**。

仕組みを変えるのは、1人ですぐできることではない。一人一人の努力は、今、1人でも始められる。

スワラージ（自治・独立）は、私たちの手の中にある。

Be the change! 『世界に変化を望むなら、自らがその変化になれ』ガンジー

たった一人の人間がキリスト教の教えるように人生を理解して、そのように生き始め、続いて第二、第三、第百の人間が同様な生き方を始めさえすれば、そこから脱路がないように見えていた社会的生活の魔法の輪も、たちまち崩れ落ちるであろう。……

人々は、自分の足で自分たちのゆきたい所、ゆくべき所へ歩いてゆく必要はなく、彼らの足元の床が自分で動いて、別に足を動かさなくともちゃんと目的地につく、と説き聞かされる。

『**神の国は汝等の衷にあり**』レフ・トルストイ

スウェーデン（国産品愛用）

「英国や日本から安い衣類を買うようになって、我々は敗北したのです。隣人が家内手工業で作ってくれた衣類を買うのが宗教的な義務であると理解できたときに、我々は再び栄えるのです」（ガンジー）

自給を中心に、目に見える関係での本物の交換 値段(お金)を排除。 売買ではなく、助け合い

農産物価格の低迷という問題の回避

自給分だけであれば、余暇・知的労働の時間も取れる。農閑期。働く事＝余暇・楽しみともなる

支配者のため、お金のための労働から⇒幸せをもたらす労働へ

繋がりを取り戻す 協力なくして不可能＝互いを尊重しあえる。⇒思いやりが芽生える

つながることで力を得ていく 糸<布 一滴<大海

人に値段をつけてはいけない 全ての人が同じように尊い。

ガンジーの描いた未来 **命をいつくしむ**＝非暴力 **真の幸福**

今の社会は、安いが粗悪品。安いからたくさん手に入る。＝ 本当は貧しい

4-2. —この最後の者とともに歩む社会—

（ジョン・ラスキンの著書『この最後のものにも』）

「あなたはわたしと1デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ」マタイ20：14

あらゆる人に役割が与えられる。子どもにも、老人にも＝**生きがい**

「最大多数の最大幸福」ではなく、「この最後の者」が幸せになれる社会を目指す。

10の仕事を要求し、10ができない人は排除する社会から、貢献度が5でも、3でも、1でも認め合える社会へ。誰でも、赤ちゃんの時は何もできなかったし、年老いるとできなくなるのだから。

「私は、『最大多数の最大幸福』、『適者生存』という原理を信じません。人にとっての規定は、『すべてのものの幸福』、『すべてのものの発展』であり、『弱者優先』です」ガンジー

LETTER TO PREMABEHN KANTAK July 6, 1932

4-3. 競争社会から降りる

「降りてゆく生き方」 <http://www.nippon-p.org>

べてるの家的生き方

北海道浦河にある精神障害を持つ人たちの活動拠点「べてるの家」。

いま新しい価値観の発信の場として、内外で注目を集めている。

べてるのコンセプト

安心して病気になる 安心して絶望できる 安心してサボれる会社

『**変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから**』(清水義晴著・太郎次郎社)

一体私たちは、何のために勝ち続けなければいけないのでしょうか。勝つことの目的とは、なんなのでしょうか。一度このことを、立ち止まって考えてみることも必要ではないかと思えます。

逆説的な言い方ですが、競争で負けたくなかったら、早く競争をやめること、競争に加わらないことを選んだほうがいい。べてるではそれが可能でした。べてるとは、競争しない商売を始めた人たち、闘わない生き方を選ぼうとしている人たちの集まりと言えるかもしれません。

競わずに休みながらでも前へ進める、間(はざま)の道を探すことでした。そうして競争から降りてみたら、なにかを失うどころか、そこには仕事への創造性と喜びが待っていました。

代わりに仕事をしてくれる人がいれば、それも気兼ねなく頼める仲間がいれば、体調が悪い時に無理して配達に出かける必要はありません。一方で自分のほうも、仲間の体調がすぐれない時は応援したり手伝ったりしてあげる。そうすることによって、ふだんから「仲間は信頼してよい」という人間関係を築いていくこと、これが会社(=組織)においては何よりも大切なことだ、下野さんは仕事を続けていくうちにそう実感しました。

それが「安心してサボれる会社」という理念の真意です。(前書)

5. 新しい教育の提案

今の教育の問題 肝心なことが教えられていない。

全ての子どもが知らなければいけないこと

人はどう生きるべきか。哲学・宗教

生きるための技術 家事全般と手仕事や農業

少人数のプロがいればよいこと 全ての子どもが学ぶように強制されている

新しい教育 学校教育から降りる

綿の栽培(農業) 糸紡ぎ・機織り(算数・理科) 手仕事衰退の歴史

子どもの手伝いの復活 料理、掃除など+庭仕事に手仕事

手伝い(肉体労働)を知的に行うことを通して、子供の知性を伸ばす。

小学校レベルの学力があれば、あとは独学で何でも学べる。寺子屋式教育

自給自足型の社会で自分の役割を見つけていく 就職活動からの自立

付録 「神の国は汝等の衷にあり」レフ・トルストイ 北御門二郎訳 冬樹社 1973年より

被抑圧者が抑圧者の利益のためにぎりぎりの非力状態に陥らされる。……威嚇、買収、催眠術のおかげで、人々は兵隊に取られていく。……自分達には選択の自由があることにもまるで気づかないようである。

もし上司の意のままに、命令されればだれでも拷問したり殺害したりしようと身構えているそれらの人々がいなくなったら、……様々の暴君たちが行ってきたああした恐るべき行為が行われるのは、彼らを背後から支援するところの、命ぜられたことはなんでも唯々諾々と実行する人々によって構成されている権力のせいにも他ならない。……人々を神や己の良心に対する忠純から解き放って、たまたまその時自分の上官であるものへの忠純と取り替えるという欺瞞こそ、本質的に軍隊や国家の力の基礎となっている。……永遠の中でただ一度だけあなたに与えられた人生を、あなたが疑いもなくなすべきであったことをなさないで、いたずらに滅ぼしてしまうことによって自分自身に犯した悪の償いをする可能性を永久に失うという危険を冒しているのである。…人生のただひとつの意味は、神の国の建設に協力することによって世界に奉仕することにある。

6. ガンジーにとっての平和

"There is no way to peace, peace is the way."(平和への道はない、平和が道である。)

平和とは way of life 生き方である。正しい暮らし方をしていないと、平和はなくなる。

学ぶ：知らない間に行っている加害行為を知る。

実践：日常生活を丁寧に生きる。人を変えるのは座学ではなく、実践。

ガンジーが求めたことは、特別な英雄的行為よりも、むしろ糸紡ぎ。

本当に世界を変えるのは、権力・富・数・力ではなく、静かに持続する意志

結果を求めず、忍耐強く 煉瓦を一つずつ積み上げ、非暴力の強さを静かに、断固として示していく

真の幸福を発見した人が楽しく生きていれば、周囲に影響を与えずにはおかない。

希望を持つこと。歴史は戦争だけではない。非暴力の歴史を発掘し、記録する

「もし世界の諸々の営みの総計が破壊的だとすれば、とっくの昔に世界は滅亡していたはずだ。愛が、言いかえればアヒンサーが、私たちの地球を支えてくれたのである。」(「私の非暴力 I」マハトマ・ガンディー著 みすず書房より)

「神が存在しておられなければ、草の葉一枚もそよぐことはありません。・・・私はただ、自分の務めを果たすのみです。結果は神の御手の中にあります」 by ガンジー

LETTER TO SIR REGINALD MAXWELL, May 21, 1943



参考図書：

『ガンジー・自立の思想』(地湧社)

『ガンジーの教育論』

『非暴力・平和・糸車』

(ブイツーソリューション)

付録：ガンジー語録

すべて人は、自らの内なる声に聞き従うべきです。羊のように他者に追随するのは良くありません。・・・私や、私に賛同してくださる方が、その人生でこの真理を証明できなくても、それは、私たちが不十分だったのであって、この永遠の法則に誤りがあるからではありません。ハリジャン 29-6-1947

口では非暴力を褒め称えながら、多くの人が心に暴力的思いを抱いています。自分たちの信条を偽っているながら、自分たちを責め、改めることをしないで、非暴力を責め、それに対する信頼を失っているのです。Young India 20-5-1926

自己の利益を求めず真理や国家のためにつくす準備の整った人が一人いれば、必ず何らかの結果をもたらすことができます。スピーチ 27-7-1916

非暴力の信奉者は他者を待つことはしません。時が来れば、他の人も同じようにすると信頼しているのです。歴史を見れば、どのような改革も、一人の人間から始まっています。スピーチ 2-9-1917